

# 日本語教育における助動詞「ものだ」の導入

松下 光宏

## Introduction of the Auxiliary Verb *monoda* in Japanese Language Teaching

MATSUSHITA Mitsuhiro

神戸医療未来大学紀要 第24巻 第1号

(令和5年12月)



<原著>

## 日本語教育における助動詞「ものだ」の導入

松下 光宏

### Introduction of the Auxiliary Verb *monoda* in Japanese Language Teaching

MATSUSHITA Mitsuhiro

This paper analyses the introduction of *monoda* in terms of how it is used in context and for what purpose, and proposes the following two usages and expressive intention.

Usage 1 : In response to a targeted unusual event, express an ordinary event with *P monoda*. The inverted conjunction word is followed, which again expresses the targeted unusual event, or an evaluation of the event. *P monoda* is used annotatively.

Usage 2 : Express an awareness or impression caused by the targeted unusual event.

Expressive intention : Express an evaluation or judgment that the event under discussion is different from what it should or would normally be to the speaker or listener.

**Key words** : *monoda*, usage in context, expressive intension, unusual event, awareness/  
impression

「ものだ」、使用文脈、表現意図、異質・例外の事態、気づき・感想

### 1. はじめに

本稿では、助動詞「ものだ」(「ものだ」の異形態、否定形「ものではない」とその異形態を含めた代表形)の日本語教育での導入について現行のものとは異なる説明を提案する。

現行の日本語教育では、日本語学の研究成果である、1文レベルで分類された複数(3~5つ)の用法が1つずつ個別に導入される。そして、それらすべてに共通する意味や表現意図は提示されていない。本研究では「ものだ」を文脈のなかでどのように用い、何のために用いるかという観点から分析を行い、その結果得られる2つの用法と、それらに通底する文脈での表現意図を提示する導入を提案

したい。

本稿は以下、次のような構成をとる。2節で日本語教育における扱いを概観し、その問題点を述べた後、3節で「ものだ」の使用文脈の特徴と用法、4節で「ものだ」の文脈での表現意図を分析する。5節で日本語教育での導入時の説明を提案し、6節でまとめを行う。

### 2. 日本語教育における扱いと問題点

#### 2-1 日本語学での議論と日本語教育における扱い

日本語学での助動詞「ものだ」の研究は主に「Pものだ」(以降、便宜上「ものだ」に前接する文相当の部分を「P」と表す)1文を分析対象としてその意味・用法が議論され

てきており、例えば、日本語記述文法研究会（編）（2003、pp.220-224）<sup>1)</sup>では（1）に示す用法が挙げられている。

(1) 【『日本語記述文法研究会（編）（2003）』での用法ごとの説明と例文】

- 本性・傾向：「XはYものだ」の形で、Xの本質や傾向を述べる。

例文：人間は寂しいものだ。(pp.220-221)

- 当為：「XはYものだ」の形で、一般的に望ましいと話し手が考えている行為を提示する。

例文：学生は勉強するものだ。(p.221)

- 回想：過去の出来事を回想する用法。習慣的な出来事を回想することが多い。単に思い出しているのではなく、なつかしさを伴う回想である。

例文：夏祭りには毎年ゆかたで出かけたものだ。(p.222)

1回限りの出来事の回想には用いられにくいですが、感慨を伴う内容の場合、用いられることもある。

例文：あの時は、心臓がとまりそうなくらい驚いたものだ (p.222)

- 感心・あきれ：意外な事態の存在に対する、感心やあきれを表す。

例文：こんな雨の中、たくさん人があつまったもんだなあ。(p.223)

- 「たいものだ」「ほしいものだ」「てもらいたいものだ」で自分の願望を、変えがたいものとして述べる。実現しにくい願望を述べる場合が多い（以降、「願望」の用法とする）。

例文：一度でいいからあんな大舞台に立ってみたいものだ。(p.223)

- 「(し) そうなものだ」で、その事態の実現が当然のこととして予想されるにも関わらず、実現しないことを表す（以降、「当然の予想」の用法とする）。

例文：欠席するのなら、連絡ぐらいくれそうなものだよね。(p.224)

日本語教育での文法項目の導入は日本語学の研究成果をもとに説明や例文が示されることが一般的であり、「ものだ」の導入もこれらの1つずつの用法を個別に導入する方法をとっていることが予想される。本研究では一般に日本語学校等でよく使用されていると思われる中級レベルの日本語総合教科書9冊<sup>2)</sup>を調査し、「ものだ」の用法とそれが導入される課を調べた。「ものだ」の扱いがあった教科書は、『日本語中級 J501 中級から上級へ英語版（改訂版）』（表中、『J501』）、『テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版』（表中、『テーマ別』）、『できる日本語 中級 本冊』（表中、『できる』）、『ニューアプローチ 中級日本語 [基礎編] 改訂版』（表中、『ニュー』）、『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』（表中、『みんな』）で、表1はその結果を表したものである。表中では「当為」の用法は「本質・傾向」の用法にまとめて示している。「ものだ」の扱いがある教科書では、例文を見る限り、「本質・傾向」と「当為」が同じ用法として扱われているためである<sup>3)</sup>。

「ものだ」の扱いのあるすべての教科書で、「ものだ」の導入は用法ごとに分かれ、説明や練習で用いられる例文もほぼ文脈のない1文での提示となっている。これらの教科書のなかから、先に示した用法のうち5つの用法が扱われ、その説明の例文と練習問題が提示されている『ニューアプローチ 中級日本語 [基礎編] 改訂版』の扱いを例として引用する。

(2) 【『ニューアプローチ 中級日本語 [基礎編] 改訂版』での用法ごとの説明と例文】

- 本性・傾向、当為（第9課）(pp.91-93)  
説明：物事の真理・当然  
説明の例文：人間は一人では生きられないものだ。

表1 日本語教科書で扱われている「ものだ」用法と提示される課

	『J501』	『テーマ別』	『できる』	『ニュー』	『みんな』
本性・傾向 / 当否	—	○ (第6課)	○ (第5課)	○ (第9課)	○ (第18課)
回想	○ (第7課)	○ (第8課)	○ (第16課)	○ (第11課)	—
感心・あきれ	○ (第4課)	—	○ (第7課)	○ (第17課)	—
願望	—	—	○ (第7課)	○ (第13課)	—
予想	—	—	—	—	—

練習の例文：学生というのは\_\_\_\_\_。  
アルバイトばかりしてはいけ  
ない。

●回想 (第11課) (pp.115-117)

説明：過去の習慣を思い出して述べる時、  
懐かしいという気持ち表現する

説明の例文：小学生のころ、父といっしょ  
に山にきのこを採りにいったもの  
です。

練習の例文：こどものころ\_\_\_\_\_がす  
きだったので、よく\_\_\_\_\_もの  
だ。

●感心・あきれ (第17課) (pp.175-177)

説明：感嘆：感心したり、驚いたり、あ  
きれたりする気持ちを表現する

説明の例文：月日がたつのは早いもので  
すね。日本にきてもう1年になり  
ます。

練習の例文：\_\_\_\_\_なんて、  
たいしたものだ。

●願望 (第13課) (pp.132-134)

説明：実現は難しいだろうけど、なんと  
かしたい / できたらいいな」とい  
う気持ちが入る

説明の例文：そんなに素晴らしいもの  
だったら、ぜひ見たいものですね。

練習の例文：そんなにおいしいものなら、  
私もぜひ一度\_\_\_\_\_。

2-1で示したような1文レベルで種々の用  
法に分けての導入には次のような問題点が考  
えられる。

(3) 1文レベルでの提示では、実際にどのよ  
うな文脈で、どのように使い、何のため  
に用いるのかが学習者にはわかりにくい

(4) 1文レベルで判定される用法は文脈のな  
かで別の用法にとらえられる場合がある

まず、(3) について具体的に述べると、「P  
ものだ」の1文は実際の使用では文脈の流れ  
のなかで用いられるのであり、何等かの対象  
とする事態が存在するはずである。そうした  
対象とする事態に対し「P ものだ」がどのよ  
うに用いられているかを示す必要があるの  
ではないだろうか (感心・あきれ、当然の予想  
の用法は対象とする事態が意識されたものと  
理解できるが、その他の用法はそうした対象  
とする事態を意識した記述とは感じにくい)。

モダリティの種類という点において「もの  
だ」が分類される説明のモダリティ<sup>4)</sup> には  
助動詞「のだ」が存在するが、「のだ」は主  
な用法に先行文脈との関係づけを表す用法が  
田野村 (1990)、野田 (1997)<sup>5)</sup> などで記述  
されており、日本語教育においても先行文脈  
と関係づけた形で導入されている。(5)は『み  
んなの日本語 初級Ⅱ 第2版』で提示される  
例文である。用法の説明は『みんなの日本語  
初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』<sup>6)</sup> (以下、『手  
引き』とする) から引用する。

(5) 【『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』 (p.4)

2-2 現行の日本語教育における扱いの問題点

での「のだ」の用法と例文】

- 目の前の相手から得た情報を基に、話し手の推論を確認する（『手引き』 p.17）

例文：新しいパソコンをかったんですか。

- ある事態や状況について、その理由を尋ねる / 事情を説明する（『手引き』 p.20、p.22）

例文：どうして会社をやすんだんですか。一頭がいたかったんです。

- 依頼の根拠となる状況や理由を説明する（『手引き』 p.23）

例文：資料がほしいんですが、おくっていただけませんか。

「のだ」は初級で導入されることが多く、「のだ」と「ものだ」は導入される学習者レベルが異なるわけだが、そういった導入段階の違いに関係なく、「ものだ」においても学習者がその用法や機能をよりよく理解できるようになるためには文脈の流れのなかでどのように用いるかという観点から導入を行うべきではないだろうか。

次に、(4) についてより具体的な説明を行うために (6) の「ものだ」の用例を示す。「P ものだ」(実線部分) は 1 文レベルでは本性・傾向の用法と考えられるが、文脈のなかでどのように用いられているかを考えた場合、三十代までの状態 (点線部分) とは異なる変化 (波線部分) を受けて新たな気づきや感心を表した用法だと考えられる。つまり、本性・傾向の用法というよりも感心・あきれの用法に近いものである。

- (6) 部屋で、大好きなチャイコフスキーのバイオリンコンチェルトをかけて、ソファに横たわって聞いていると、幸福な気分になる。三十代までは、同じ状況の中いても、淋しくて淋しくて泣いていたのに…。人間って変われば変わるものだ。つまり、考え方が大事なのだ。

(松原 淳子 『OL 定年物語』)

このように、「P ものだ」(実線部分) の 1 文レベルで判定される用法はそのまま文脈のなかでの用法を表すわけではない。このような (3) (4) の問題点から、本研究では「ものだ」がどのような文脈で、どのように用い、何のために用いるのかを調査・分析し、その結果を日本語教育での導入で提示すべきものとして提案したい。

### 3. 「ものだ」の使用文脈の特徴と用法

この節では「ものだ」の使用文脈の特徴と用法について述べる。3-1 でいくつかの点から調査、分析を行い、3-2 でその分析結果をまとめる。用例の調査、分析には『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(国立国語研究所)<sup>7)</sup>を用いる。これは「ものだ」が自然会話のような話し言葉ではあまり用いられないと思われるためである。

#### 3-1 使用文脈と用法の分析

日本語記述文法研究会 (編) (2003) の記述をもとに「ものだ」がどのような文脈で用いられるかを考えると、感心・あきれの用法には意外な事態、当然の予想の用法には当然のこととして予想されることが実現していないという事態が対象として意識されているように考えられる。そのほかの本性・傾向、当為、回想、願望の用法についてもどのような事態が対象として存在しているか考えてみると、(7) のような事態を想定することができる。

- (7) 本性・傾向：ある主題についての本質的・傾向的な事態とは異なる事態  
 当為：ある主題について一般的に望ましいと考えられる事態とは異なる事態  
 回想：過去の習慣的出来事とは異なる事

態、または、過去に起こった感慨を伴う意外な事態

願望：話し手自身の願望の実現が難しい状態（事態）

こうした予測を踏まえて、本研究では、対象とする事態（以降、「対象事態」とする）を表す文・節<sup>8)</sup>と「P ものだ」が文脈のなかでどのように展開していくのかという使用文脈の特徴と用法を分析するために、以下の①～④の項目についての調査を行う。①、②の項目で文脈の展開がわかりやすくなり、①、③、④の項目で用法がとらえやすくなる。

- (8) ①「ものだ」の出現形式（「ものだ」に付加する接続助詞、直後の接続詞も含める）
- ②対象事態を表す文・節の出現位置（先行文脈か後続文脈か）
- ③「P ものだ」と対象事態を表す文・節に対立項を持つ語句（以降、「対立語句」とする）が存在するか
- ④「P ものだ」によく出現する語句

表2はこれらの項目の調査結果の組み合わせによる分類を示したものである。対立語句の判定については意味的、または、語用論的に対比を表す副詞的成分、格成分、述語などが2つの事態間で対立する関係にあるかを確認した。表中、③の(ア)(イ)にある「両方」とは対象事態を表す文・節と「P ものだ」の2つを表し、「一方」とは対象事態を表す文・節または「P ものだ」のどちらか1つを表す。

表2の(エ)(オ)の「ものなのだ」の形式の場合、「のだ」が話し手自身の得た新たな気づきを表す把握の「のだ」か、話し手の既知の認識を聞き手に示す提示の「のだ」かの違いで分けている<sup>11)</sup>。また、(ウ)(エ)(オ)の出現形式「ものだ」の場合も、話し手の感想や感情を表すものか、話し手自身が得た新たな認識を表すものか、話し手が既知の認識を聞き手に示すものかによって分けている。(カ)は対象事態が文脈に存在しないものであるが、それらはすべて(9)のような引用や個条書きなどでの使用である。

表2 文脈における「ものだ」の使用についての調査結果

	①「ものだ」の出現形式 (接続の語句も含む)	②対象事態を表す文・節 の出現位置	③対象事態文と「P ものだ」 の対立語句の出現	④「P ものだ」に現 れる語句の例	用例数 503例 <sup>9)</sup>
(ア)	「ものだが／ものだけど／ものなのに」「ものだとところが／しかし」	先行文脈と後続文脈の両方	・両方に出現 47例 ・一方のみ出現 4例 ・両方に出現なし 0例	・普通／本来 ・たいてい ・誰でも	51
(イ)	「ものだ」「もので」	・先行文脈と後続文脈の両方 ・先行文脈のみ	・両方に出現 11例 ・一方のみ出現 5例 ・両方に出現なし 0例	・本来 ・一般的 ・たいがい	16
(ウ)	「ものだ」「ものだな(あ)」「もので」 <sup>10)</sup>	先行文脈または後続文脈		よく(も)	159
(エ)	「ものだ」「ものだな(あ)」「ものなのだ(把握「のだ」)」「ものなのか」「ものだろうか」	先行文脈のみ		そういう	137
(オ)	「ものだ」「ものだよ」「ものなのだ」「もののだよ(提示「のだ」)	先行文脈のみ		そういう	114
(カ)	「ものだ」	なし			26

(9) (前略)『十訓抄』の筆者は、“藪にかうのもの”とはこういう意味の諺だといって、この話を結んでいる。すなわち、この諺は草深いところにも立派な人がいるものだというほどの意味だ。

(鈴木 晋一『たべもの史話』)

以下、表2の(ア)～(オ)の使用文脈の特徴と用法を説明し、例を示していく。

[(ア)の文脈の特徴と用法]

対象事態を受けて、そのあとに「P ものだ」が表されるが、「ものだ」には逆接の接続の語「が」「けれど」「ところが」「しかし」などが続き、後続文脈には再度対象事態を表したり、その事態を評価したりする文が表される。対象事態を表す文・節と「P ものだ」の間には対立する語句が出現し、「P ものだ」のPは対象事態と対立する事態を表す。「P ものだ」は対象事態の特徴を引き立てるため注釈的に用いられている。

(10)の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の本性・傾向にあたる。文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、ある男の子「トクオ」の動作が表され、その事態を受けて「P ものだ」のPにはそれと対立する、幼い子全体に見られる一般的な動作(実線部分)が表される。そのあと、逆接の「が」により後続には再度先行文脈の対象事態と同じ「トクオ」の動作(波線部分)が表されている。「P ものだ」は対象事態の特徴を際立たせるため注釈的に用いられている。

(10)中村先生は、かたい笑いをうかべ、せいっぱいからかうような調子でいった。「これが、トクオちゃんのおかあさんなの？」トクオはうなずいた。きっぱりとだ。おさない子の動作には、どこかあいまいさがあるものだが、そんなあいまいさはすこしもなかった。

(浜 たかや『おばあちゃん宇宙へいく』)

(11)の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の回想にあたる。文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、ある駅の現在の様子(波線部分)が表され、その様子を受けて「P ものだ」のPにはそれと対立する以前の様子(実線部分)が表される。そのあと、逆接の「が」により後続には再度先行文脈と同じ現在の様子(波線部分)が繰り返されている。「P ものだ」は対象事態を際立たせるため注釈的に用いられている。

(11)東海道本線から少し離れた北側のホームに相模線の乗り場がある。少し長めの跨線橋をわたると、ステンレス製のきれいな電車が停まっていた。ついこの前までは、ここから発車するのはディーゼーカーで、このホームに降りると何となく旅のムードがただよったものだったが、昨年三月、電化が完成し、にわかに都会的なイメージが濃くなった。

(横見 浩彦『乗った降りたJR四六〇〇駅』)

[(イ)の文脈の特徴と用法]

対象事態を受けて、そのあとに「P ものだ」が表されるが、「ものだ」または等位節の「もので」という形式をとる。「もので」の場合、後続の節に「P ものだ」の具体例やさらなる説明が続く。対象事態を表す文・節と「P ものだ」の間には対立する語句が出現し、「P ものだ」は先行文脈の対象事態と対立する事態を表す(「P もので」の場合は後続の節とが一体となって対立する事態を表す)。そのあとには逆接の接続語句が存在し、先行文脈の対象事態を再度表す場合もある。よって、この用法は(ア)に準ずる用法と言える。

(12)の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の回想にあたる。文脈のなかでは先行文脈に



「P ものだ」の対象事態として、子どもに順位をつけない現在の教育の様子（波線部分）が表され、「P ものだ」のPにはそれと対立する過去の教育の様子（実線部分）が表される。「P ものだ」と後続の節、文脈にはPのより詳しい説明（点線部分）が表されている。

(12) 以前教師をしていましたが、今は運動会の徒競走にも順番をつけないところがあるそうです。「頑張って走ったら皆が一番だ」と言う方針のようです。子供に何でも順番をつけるのがよくないらしく、おそらくテスト順位もそういう考えからつけないのでしょうか。今の世の中変な世の中です。私たちが子供のころはなんにでも順位がつくもので、それで頑張って努力したり、悔しい思いをしたり。そうやってみんなおおきくなってきたの、にね。（『Yahoo! 知恵袋』2005年）

(13) の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究（日本語記述文法研究会（編）2003）の本性・傾向にあたる。文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、ある女性の完璧さ（波線部分）が表され、その事態を受けて「P ものだ」のPにはそれと対立する女性全般に見られる特徴（実線部分）が表される。「P ものだ」と後続の節、文脈には、逆接の「しかし」により再度先行文脈と同じ事態である、ある女性の完璧さ（波線部分）が繰り返されている。

(13) 彼女はすべてにそつがなく、女として完璧でした。どんな女にもひとつやふたつ、いやな部分があるもので、例えば、すごくお高くとまっているとか、異常に嫉妬深いとか、すごく上品な顔していびきをかくとか、ひとつぐらい欠点があるものです。が、しかしこの女は違うのです。まるで非のうちどころがないのです。

（関口 誠人『青春ちゃん』）

#### [(ウ) の文脈の特徴と用法]

対象事態を受けて、そのあとに「P ものだ」が表されるが、「ものだ」には終助詞「な（あ）」を付加した形式が多く現れる。「P ものだ」のPには話し手の感心やあきれをはじめとする感情を表す語句が多く出現する。「P ものだ」は対象事態から引き起こされる話し手の感想を表すものとして用いられている。

(14) の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究（日本語記述文法研究会（編）2003）の感心・あきれにあたる。戦時中のある子どもの発言について書かれた内容であるが、文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、子どもの本性と発言とのギャップ（波線部分）が表されている。その事態を受けて「P ものだ」のPには話し手が抱いた感想（実線部分）が表されている。

(14) 異様なほどたべることに執着しているくせに、“ほしがりません、勝つまでは”などと、当時はやりの標語を持ちだすなんて、あきれたものだと思った。

（長崎 源之助『長崎源之助全集』第13巻）

(15) の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究（日本語記述文法研究会（編）2003）の願望にあたる。文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、ある記事の内容（波線部分）が表されている。「P ものだ」のPには先行文脈の対象事態を受けて、話し手の願望という形での感想（実線部分）が表されているが、そこには同時に話し手が抱いた「あきれ」の感情も表されている。

(15) マスコミは単なる自民党の宣伝マンになっているのか？ 国民を愚弄するのもいい加減にしてもらいたいものである！ましてこのような記事を書いている記者の名前が明記されていない！

（『Yahoo! ブログ』2008年）

#### [(エ) の文脈の特徴と用法]

対象事態を受けて、そのあとに「P ものだ」が表されるが、「ものだ」には把握の「のだ」や推量の「だろう」、終助詞「な(あ)」が付加した形式が多く現れる。「P ものだ」の直前には「なるほど」「そうか」などの語句、Pには「そういう」といった語句が多く出現し、「P ものだ」は対象事態を受けて、そこから得られる話し手の気づきを表すものとして用いられている。(ウ)の用法との関係性を考えた場合、話し手自身の気づきの発信は感想を述べているともとらえられるものも多く、(ウ)と同様の用法と理解できるものも多い。

(16)の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の本性・傾向、または、当為にあたる。自動車ラリーでの体験を記した内容であるが、文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、ラリー途中でのそれまでとは違う事態の発生(波線部分)が表されている。「ものだ」には把握の「のだ」が付加し、Pには先行文脈の対象事態を受けての話し手自身の新たな気づき(実線部分)が表されている。

(16) “あれっ!?” 気がつくと、かたわらのバーバラの姿は消えている。代わりに私を取り囲んでいるのは西巻くんでもなく、例の派手なコスチュームを着込んだワークスの面々だった。ガストン・ライエやヤマハのワークスたちが、ぴっちりと後ろについて笑っている。そうか、それまではバラバラでも、カイロに入ったら自然とワークスが前に行くもんなんだ…と気付き、左手で“どうぞ、お先に”と合図をした。

(三好 礼子『砂の子—ファラオラリーフォト・ノート—』)

(17)の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の本性・傾向にあたる。文脈のなかでは先行

文脈に「P ものだ」の対象事態として、これまで見たこともない外国人の肌の色(波線部分)が表されている。Pには先行文脈の対象事態を受けての話し手自身の新たな気づき(実線部分)が表されているが、感想を表しているとも理解できる。

(17) 墨を塗ったために黒いのか、本当に肌が黒いのかを確かめさせたのは当然であろう。そして、それが本当であることを知ったとき、信長は、「世界にはいろいろな人種がいるものだ」と、はじめて認識を新たにしたものと思われる。

(小和田 哲男『国際情報人信長』)

#### [(オ)の文脈の特徴と用法]

対象事態を受けて、そのあとに「P ものだ」が表されるが、「ものだ」には提示の「のだ」や終助詞「よ」が付加した形式が多く現れる。「P ものだ」のPには「そういう」という語句が多く出現し、「P ものだ」は対象事態を受けて、そこから得られる聞き手にとっての気づき(話し手には既有的認識)を提示するものとして用いられている。対象事態を受けて新たな気づきを表すという点で(エ)と同様の用法と言える。

(18)の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の本性・傾向にあたる例と考えられる。警察から質問を受けたことを気にする人物が描かれているが、文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、警察の聞き込みの対象の広さ(波線部分)が表されている。「ものだ」には提示の「のだ」、終助詞「よ」が付加し、Pには先行文脈の対象事態を受けて、聞き手が新たに認識し、受け入れるべきこと(実線部分)が表されている。

(18)「気にしなさんなよ、武史ちゃん」ママは慰めるように言った。「警察はいろいろ周辺から聞き出すのが商売なんだし

さ。(中略) どういう調べ方をしてるのか素人にはさっぱりだけど、ともかく、そういうもんなのよ。被害者のほうだって、いろいろ聞かれることになるんだから。(小池 真理子『殺意の爪』)

(19) の「P ものだ」は1文レベルでは先行研究(日本語記述文法研究会(編)2003)の願望にあたる。組織での働き方を述べた内容であるが、文脈のなかでは先行文脈に「P ものだ」の対象事態として、聞き手がなかなか気づかない点(波線部分)が指摘されている。「P ものだ」のPには先行文脈の対象事態を受けて、聞き手が新たに認識しておくべきこと(実線部分)が表されている。

(19) 自分のかぎられた経験の範囲だけで判断すると、ときにとんでもない間違いをすることがあります。つねに、みんなで相談することを心がけたいものです。他人の知恵をバカにしては、全体を正しく判断することはできないでしょう。これは、上に立つ人も同じだと思います。

(伊藤 雅俊『商いの心くばり』)

### 3-2 使用文脈と用法のまとめ

3-1で示した(ア)～(オ)の使用文脈と用法は、「P ものだ」のPが表す内容から、(ア)

(イ)と(ウ)(エ)(オ)の2つにわけることができる。前者は対象事態に対して対立する事態を表す用法(以降、「対立事態提示用法」とする)であり、後者は対象事態を受けて気づきや感想を表す用法(以降、「気づき・感想提示用法」とする)である。以下に、それぞれの特徴をまとめ、文脈の流れを図示する。

#### 【対立事態提示用法】

対象事態を受けて「P ものだ」で対立する事態を表す。ほとんどの場合逆接の語が続き、後続に再度対象とする事態や対象とする事態への評価が続く。この場合、「ものだ」は注釈的に用いられる。

#### 【気づき・感想提示用法】

対象事態から得られる話し手自身、または、聞き手にとっての気づき、対象事態から引き起こされる話し手の感想や感慨を表す。

## 4. 「ものだ」の表現意図

この節では「ものだ」を文脈のなかで何のために用いるかという表現意図を明らかにしたい。対立事態提示用法での対象事態と「P ものだ」のPの事態の特徴、気づき・感想提示用法での対象事態の特徴をとらえると、「ものだ」が何を言い表しているかがわかり、

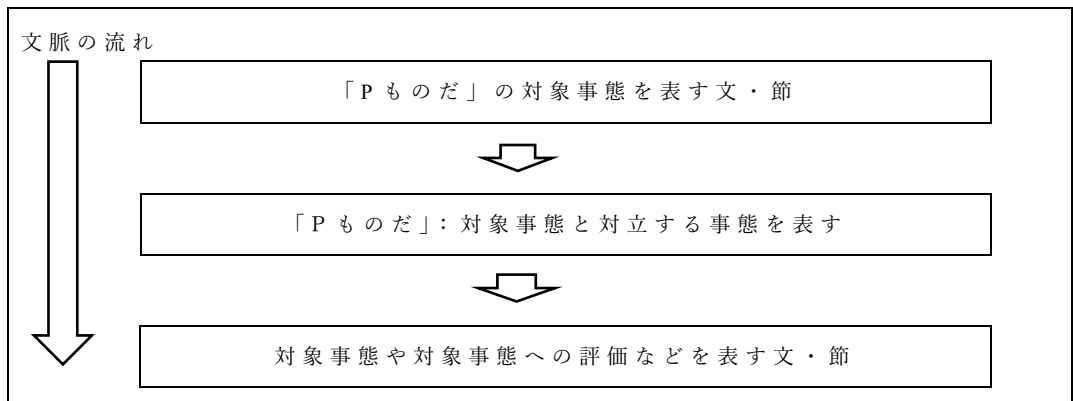


図1 「ものだ」の対立事態提示用法の文脈の流れ

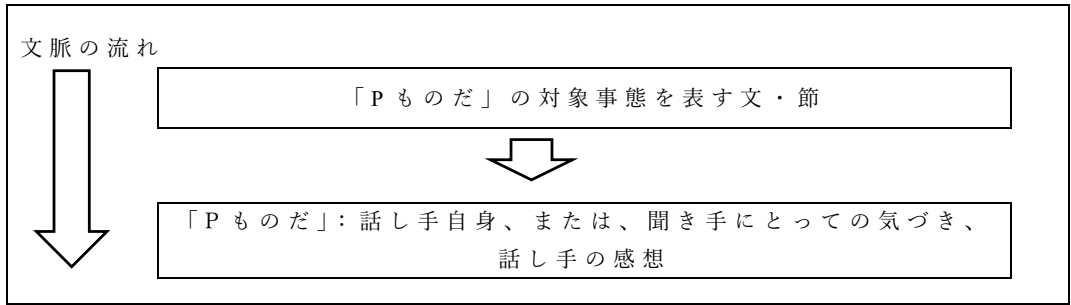


図2 「ものだ」の気づき・感想提示用法の文脈の流れ

「ものだ」の表現意図も明らかになる。4-1では対象事態と「P ものだ」のPの事態の特徴を分析し、4-2で「ものだ」全体に通じる表現意図を述べる。

#### 4-1 対象事態と「P ものだ」のPの事態の特徴

対立事態提示用法の対象事態と「P ものだ」のPの事態、気づき・感想提示用法の対象事態の特徴をとらえるため、それぞれの事態を表す文・節に出現する対立語句を分析する。

表3は対立事態提示用法の対象事態を表す文・節と「P ものだ」に出現する対立語句の詳細を類義の語句ごとにまとめて示したものである。これらの語句には、対立のペアとなる語句が対象事態を表す文・節と「P ものだ」に出現している場合と、対立項を暗示する語句の1つのみが対象事態を表す文・節か「P ものだ」のどちらかに出現している場合がある。なお、表2の(ア)のように対象事態を表す文・節が「P ものだ」の先行文脈、後続文脈の両方に表されていて、その両方に対立語句が出現している場合は先行文脈に出現している語句のみをカウントしている。また、1つの文・節に対立語句が複数存在する場合もそのうちの1つのみをカウントしている。

本研究では、対立事態提示用法での対象事態と「P ものだ」のPの事態の対立を、表

3に示した対立語句から「異質・例外」と「本来・通常」の対立としたい。これは松下(2016)<sup>12)</sup>が「ものだから」の分析において、使用文脈で対立する2つの事態に用いた用語であるが、対立事態提示用法での対象事態と「P ものだ」のPの事態の対立においても同様の傾向が見られるからである。

松下(2016)では「ものだから」について次の点が指摘されている。

(20) 【松下(2016)での記述】

- 「P ものだから Q」は話し手自身の認識において本来・通常起きる(起きていた)と見なす事態とは異なる、異質・例外と見なす事態を表し、そこには「私/こっち」「今度」「～時代/年代になると」といった語句が多く出現する。
- 「P ものだから Q」のQと対比的に表される事態は話し手自身の認識において本来・通常起きる(起きていた)と見なす事態を表し、そこには「本来/本当」「他の～/～以外」といった語句が多く出現する。

「ものだ」において、表3の対象事態を表す文・節に出現する対立語句は「P ものだから Q」に出現する対立語句と類似し、「P ものだ」に出現する対立語句は「P ものだから Q」の事態と対立する事態を表す文・節に出現する対立語句と類似している。対象事態を

表3 対立事態提示用法での対象事態を表す文・節と「P ものだ」に現れた対立語句とその出現数（2回以上のもの）

対象事態を表す文・節に現れた対立語句	出現数	「P ものだ」に現れた対立語句	出現数
この～/ここ	6	普通/本来/一般的に/全体に/通常	14
私/おれ/彼/彼ら	5	誰でも/誰だって/いつでも/いつだって/どこでも/どんな～にも(でも)	8
固有名詞(人物名、地名)	4	男/女/女の子	4
今/最近	3	たいてい/たいがい/いつも/多く	4
男/女	3	昔/かつて/～ころ	4
～人	2	～とき	4

表す文・節に出現する固有名詞や「私」「この～」などは一般的、または、ある集団のほぼすべてに共通する事態とは異なる事態（異質・例外の事態）と結びつきやすく、「P ものだ」に出現する「普通」「本来」「たいてい」「誰でも」などは話し手が本来、一般的に、または、ある集団のほぼすべてに起きるはずと見なす事態（本来・通常の手態）と結びつきやすい。以下に例を示す。

(21) の「P ものだ」の対象事態（波線部分）には「吉宗」という特定の人物が歴代の将軍とは異なるという異質性が表されている。一方、「P ものだ」のPの手態には、歴代の将軍全員に共通する慣習的な特徴（実線部分）が示されている。

(21) また吉宗は、知的関心の傾向においても、歴代の将軍たちと大きく異なっていた。普通の将軍といえは、和歌や文学といった情緒的な学問や儒学を好むものだったが、彼はそうしたものに全く関心を示さなかった。むしろ吉宗が好んだのは、科学的なものだった。

(大石 慎三郎『将軍と側用人の政治』)

(22) の「P ものだ」のPの手態には「ど

こでも」という全体に共通する一般的な性質（実線部分）が示されているが、「P ものだ」の対象事態（波線部分）には「ここ」という限定されたレストランのほかとは異なる異質性が表されている。

(22) 北向きの寒々としたそのレストランで、出てきた料理が、これが本物の揚州料理というべき逸品ばかりであった。中国料理の冷菜はどこでも食べきれぬほど出るものだが、ここではそうではなかった。

(井出 孫六『風変わりな贈り物』)

次に、気づき・感想提示用法の対象事態を表す文・節に出現する対立語句であるが、対象事態を表す文・節の先行/後続文脈には、対象事態と対立する事態（以降、「対立事態」とする）が多く表わされていることがわかった。これらの2つの事態を表す文・節に出現する対立語句を表4に示す。語句のカウンターの仕方は表3と同様である。

気づき・感想提示用法の対象事態を表す文・節においても、表3に示した対立事態提示用法の対象事態を表す文・節に出現する対立語句が多く現れていることがわかる。特徴的なのは「昔」「～ころ」や「今」「現代」などの

時間的に対立する語句が、対象事態と対立事態を表すそれぞれの文・節に多く出現していることである。これは話し手がどちらの時間を習慣的と見なすかによって、両者は、かつて通常起こっていた／現在通常起こっている事態（本来・通常の手態）とも、これまで／現在の通常の手態とは異なる事態（異質・例外の手態）ともなりうるためであろう。「P ものだ」のPには話し手や聞き手のとっての新たな気づきを表すことが多いのであるから、対象事態と対立事態に過去／現在の異なりの対立が表されるのも理解できる。また、Pに感心やあきれといった感情が表されるのは対象事態が異質なものであるからであろう。よって、気づき・感想提示用法の対象事態も対立事態提示用法の対象事態と同じ特徴を持つと言える。以下に例を示す。

(23)の「P ものだ」の対象事態（波線部分）には「いま」、対立事態（点線部分）には「小さなころ」という対立語句が出現している。現在は小さなころとは異なるという異質性が表されている。

(23) 寛美 「ウソ泣きする子、役者の子」い

われて、クソッと思いましたが、小さなころにいちばんいやな言葉が、いまはいちばんの目標になってる。おかしいもんですね。

（田辺 聖子／藤山 寛美『おせいさんのほろ酔い対談』）

(24)の「P ものだ」の対象事態（波線部分）には「この頃の若者」という「昔の若者」との対立項を暗示する語句が出現し、この頃の若者が昔の若者とは異なるという異質性が表されている。

(24)「分かります。この頃の若者は、表向きのカッコ良さだけで何でもやりますからね。暴走族もそうですし、未成年の喫煙や非行化もそうです。とくに複数になると、社会の一員としての良心が麻痺するんですな。この点では、高校生も大学生も同じですよ。困ったものです」

（由良 三郎『二重殺人トライアングル』）

以上から、「ものだ」の使用文脈において対立事態提示用法と気づき・感想提示用法の「P ものだ」の対象事態と、対立事態提示用法での「P ものだ」のPの手態の特徴はそれ

表4 気づき・感想提示用法での対象事態と対立事態を表す文・節に現れた対立語句とその出現数（2回以上のもの）

対象事態を表す文・節に現れた対立語句	出現数	対立事態を表す文・節に現れた対立語句	出現数
昔／当時／～時代／戦時中／終戦後／終戦直後／～ころ	17	昔／かつて／以前／～の時代／～まで／～ころ／それまで	8
固有名詞（人物名）	7	現代／現在／いま	7
今／今では	7	他の～	2
近頃／この頃／最近	4		
男／女性	3		
私／オイラ	3		
今日から／～てから	2		

ぞれ次のようなものだと言える。

(25)【対立事態提示用法と気づき・感想提示用法の対象事態の特徴】

話し手認識において本来・通常起きるはず／起きていたと見なす事態（「本来・通常の事態」）とは異なる、異質・例外と見なす事態（「異質・例外の事態」）

【対立事態提示用法での「P ものだ」のPの事態の特徴】

話し手認識において本来・通常起きるはず／起きていたと見なす事態（「本来・通常の事態」）

#### 4-2 「ものだ」の用法の上書きと「ものだ」の表現意図

4-1で議論した対象事態、「P ものだ」のPの事態の特徴を、3で議論した「ものだ」の2つの用法に組み入れると、それぞれの用法は次のように上書きできる。

[対立事態提示用法]

対象とする異質・例外の事態を受けて「P ものだ」で対立する本来・通常の事態を表す。ほとんどの場合逆接の語が続き、後続に再度対象とする異質・例外の事態を表したり、その事態への評価を表したりする。この場合、「ものだ」は注釈的に用いられる。

[気づき・感想提示用法]

対象とする異質・例外の事態から引き起こされる気づき（聞き手にとっての場合もある）、感想を表す。

この結果、「ものだ」が文脈のなかで何を言い表そうとしているのか、次のような表現意図が見えてくる。

[表現意図]

話題の事態が話し手または聞き手にとって、本来・通常あるはずの事態とは異なる、異質・例外の事態であるという評価・判断を表す。

本来・通常あるはずの事態を対立事態として提示するということは対象事態がその反対の異質・例外の事態であるという評価を示すことになる。対象事態を受けて気づきや感心、あきれなどの感想を表すのも、その対象事態が異質・例外の事態であるという評価を表していると言える。

評価を表す言語的表現の使用については、関崎（2013）<sup>13)</sup> が否定的評価の言語的表現は評価の内容（「価値づけ」）、評価の対象となる「事柄」、対象を評価する「基準」、のいずれかに言及する方法で用いられると述べている。「ものだ」は否定的な評価に限定されるわけではないが、評価とは肯定的、否定的に関係なく、「ある対象を、ある基準によって、価値づける」ことであろう。「ものだ」の場合、対立事態提示用法では対象事態という「事柄」を話し手が認識する本来・通常あるはずの事態という「基準」で言及し、気づき・感想提示用法では対象事態という「事柄」を感心やあきれに代表されるような評価の内容（「価値づけ」）によって言及しているのである。

「P ものだ」の構成は、Pが名詞「もの」に対して外の関係の連体修飾節となる文末名詞文と同じである。助動詞「ものだ」が文末名詞文由来だとすると、「ある属性を自ら見出し付与し評価しようとする姿勢に基づくもの」（澤田、2010、p.265）<sup>14)</sup> という文末名詞文の特性を受け継ぎ、評価を表す形式として機能していると考えられるだろう。

## 5. 日本語教育での導入案

ここまで「ものだ」の使用文脈の特徴と用法、表現意図について論じてきた。本研究では、その議論で得た結果を日本語教育における導入時の説明として提案したい。

(26)【「ものだ」導入時の説明】

用法1 (対立事態提示用法): 対象とする異質・例外の事態を受けて「P ものだ」で対立する本来・通常の手態を表す。逆接の語が続き、後続に再度対象とする異質の手態やそれについての評価を表す。「ものだ」は注釈的に用いられる。

用法2 (気づき・感想提示用法): 対象とする異質・例外の手態から引き起こされる気づき(聞き手にとっての場合もある)、感想を表す。

表現意図: 話題の手態が話し手または聞き手にとって、本来・通常あるはずの手態とは異なる、異質・例外の手態であるという評価・判断を表す。

「対立事態提示用法」については、「ものだ」に逆接の語が続くもの(表2の(A))にしぼった導入としたい。説明をよりシンプルなものとするためである。

## 6. おわりに

現行の日本語教育における助動詞「ものだ」の導入は1文レベルで分類された種々の用法が個別に提示され、使用文脈や使用目的などの運用上重要な情報が十分に提示されていない状態である。本研究では「ものだ」を文脈のなかでどのように、何のために用いるのかという点から、使用文脈の特徴と用法、表現意図を分析し、導入時の説明として提案した。教育現場での教師の文型説明、学習者の理解や運用に寄与するものであると考える。

## 付記

本稿はJSPS 科研費20K13094の助成を受けた研究成果の一部です。

## 注・参考文献

- 1) 日本語記述文法研究会(編): 現代日本語文法4 第8部 モダリティ、くろしお出版、東京、2003
- 2) 調査した中級レベルの日本語総合教科書9冊は以下のとおりである。  
[中級日本語教科書9冊]  
鎌田修・ボイクマン総子・富田佳子・山本真知子、生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語、ジャパントイムズ、2012/ できる日本語教材開発プロジェクト、できる日本語中級、アルク、2013/ 松田浩志・亀田美保、テーマ別中級から学ぶ日本語(三訂版)、研究社、2014/ 石沢弘子・新内康子・関正昭・外崎淑子・平高史也・鶴尾能子・土岐哲、改訂版日本語中級 J301基礎から中級へ(英語版)、スリーエーネットワーク、2016/ 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子、日本語中級 J501中級から上級へ英語版(改訂版)、スリーエーネットワーク、2001/ 小柳昇、ニューアプローチ 中級日本語[基礎編](改訂版)、語文研究社、2002/ 小柳昇、ニューアプローチ中上級日本語[完結編]、語文研究社、2002/ スリーエーネットワーク(編)、みんなの日本語中級I、スリーエーネットワーク、2008/ スリーエーネットワーク(編)、みんなの日本語中級II、スリーエーネットワーク、2012
- 3) 当為の用法については本質・傾向の用法に含まれるものであり、語用論的に成立するものとする立場(北村、2005; 守屋、1990など)も多い。  
北村雅則: モノダ文の解釈に関する語用論的分析、名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇、47(1)、47-60、2010  
守屋三千代: 「モノダ」に関する考察、早



- 稲田大学日本語研究教育 センター紀要、1、1-25、1990
- 4) 日本語記述文法研究会(編)(2003、p.193)では「ものだ」のすべての用法が説明のモダリティに属するわけではないとしている。
- 5) 田野村(1990)や野田(1997)では、「のだ」の用法として、先行文脈や状況についてその事情などを提示・把握する用法があると述べている。  
田野村忠温：現代日本語の文法 I 「のだ」の意味と用法、和泉書院、大阪、1990  
野田春美：日本語研究叢書 9 「の(だ)の機能」、くろしお出版、東京、2003
- 6) スリーエーネットワーク(編)：みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き、スリーエーネットワーク、2016
- 7) 国立国語研究所：現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)、中納言2.4.5 データバージョン2021.03
- 8) 対象事態は2文以上にわたる場合や「Pものだ」の補文節として表される場合もある。
- 9) 「ものだ」の用例の抽出については、検索ツール「中納言」の長単位検索で「ものだ」に前接する語を動詞、形容詞、助動詞、連体詞に分けて抽出を行った。検索条件は、キー「各品詞」、後方共起1語「語彙素「物」」、後方共起2語「品詞「助動詞」+語彙素「だ」「です」」で、結果は動詞27,232+5,817例、形容詞5,119+2,088例、助動詞36,563+9,079例、連体詞2,942+745例の計89,585例であった。このうち本研究では、分析の対象が500例を超えることを目安として、各30分の1ずつの動詞907+194例、形容詞171+70例、助動詞1,219+303例、連体詞98+25例の計2,987例にしぼった。抽出の方法は、エクセルのRAND関数を用いて得られた乱数の値の小さいものから選択した。最後に1例ずつ目視で、誤抽出された例、「もの」が名詞として機能する例、名詞の意味にもとれる例、接続助詞「ものだから」「もので」「ものなら」として機能する例を取り除いた結果、503例が抽出された。
- 10) 表2、(ウ)の「もので」という出現形式の用法は、「Pもので」が後続の節の事態を受けての感想を述べるものである。次の例では「早いもので」が後続の節の「もう十年以上になる」という事態を受けての感想を述べている。  
(i) 下手の横好きみたいな連中ばかり集まっている俳句の会があって、早いものでもう十年以上になるでしょうか。  
(神吉 拓郎『たたずまいの研究』)
- 11) 把握の「のだ」とは、話し手自身が認識していなかったことを認識したときに用いられるもので、提示の「のだ」とは、話し手が認識していたことを聞き手に提示して認識させようとするときに用いられるものである(日本語記述文法研究会、2003、p.197)。
- 12) 松下光宏：原因・理由を表す接続辞「ものだから」の使用文脈の特徴—前後の文脈に表される事態との関係に着目して—、日本語教育、165、55-72、2016
- 13) 関崎博紀：日本人大学生同士の雑談に見られる否定的評価の言語的表現方法に関する一考察、日本語教育、155、111-125、2013
- 14) 澤田浩子：「彼は親切的な性格だ」と「彼は性格が親切だ」—中国語から日本語を考える—、砂川有里子・加納千恵子・一二三朋子・小野正樹(編)、日本語教育研究への招待、第14章、251-271、くろしお出版、東京、2010

